

出題意図・出典・配点（100 点）

【出題意図】

看護学を専攻する基盤となる看護専門職者として必要な知識・技術及び看護学の充実・発展・革新を試行するために必要な論理的思考力を小論文より判定する。

コミュニケーションは看護職各自の知識・技術に基づくものである。適切なコミュニケーションは、対象の身体的状態や心理的・社会的状況を把握したり、対象を理解したり、信頼関係を構築することで適切な看護につながる。そのため、対象とのコミュニケーションは、看護を行う上で重要なものである。今回はコミュニケーションに関する内容を題材とし、看護専門職として、問題文の語句の理解・解釈、論理的に説明する思考力を評価する。

【模範解答 例】

問 1 日頃の看護実践において、下線部分のように信頼関係の構築が必要と感じた看護場面を想起し、その状況を 150 字以内で述べなさい。

妊婦健診後の保健指導・相談で、妊婦は不安な表情で話をしたいようであった。私は「何かお話したいことはありますか」と質問したところ、「誰にも話していないのですが、心配なことがあり、聴いても良いですか。中絶をしたことがあり、お産に影響がありますか。出産する病院に伝えた方が良いですか。」と話し始めた。(147 字)

問 2 問 1 の看護場面をふまえて、問題文の語句を用いて、コミュニケーションに関する自分の考えを 600 字以内で述べなさい。

<解答例>

この妊婦は妊娠中絶が出産に影響するかの心配を抱え、誰にも相談できず不安な状態が続いていた。安心して相談してもらうには信頼関係の構築が必須であり、そのためにはコミュニケーションの仕方が重要となる。コミュニケーションは、言語的要素と、非言語的要素がある。非言語的メッセージは言語的メッセージに比べ、無意識の行動によるものであり、感情をより正確に表すと述べられているように、看護職は対象の表情や仕草など非言語的メッセージを正確に読み取ることが重要であり、読み取る力が必要である。そのために、看護職は対象の表情や仕草などを観察し、対象が考えていることを推察する。今回の妊婦のように、対象が何か話をしたい場合、看護職から声かけをすることで、対象は話しやすくなる。また、話しやすいように対象と同じ目線や対象が安心できる距離を作るとはコミュニケーションを円滑にし、信頼関係の構築につながると考える。コミュニケーションの過程には、刺激、送り手、メッセージ、伝達経路、受け手の 5 つの構成要素が存在する。今回の看護場面に構成要素を当てはめてみる。送り手である妊婦のメッセージを正確に読み取るには、心理や考えを理解するために伝達経路として言葉を選び、受け手である看護職が妊婦の表情や仕草とともに話を理解することが必要である。話しを正確に理解するためには、基本的傾聴技法を用いることが良いと考える。(588 字)